

# なるほど! ザ・ファンド

# Q & A

Vol.180

Q.

日本の家計の金融資産に占める「現金・預金」の割合は50%超と高くなっていますが、留意点は？

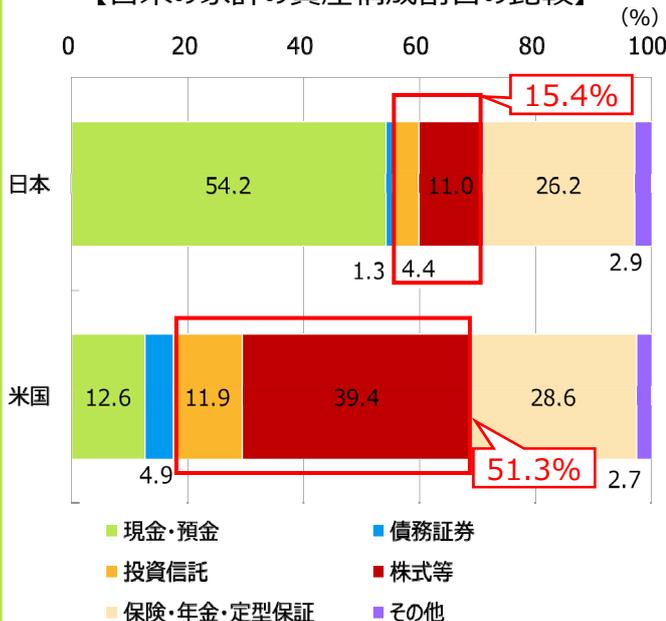
A.

デフレ環境下では「現金・預金」の保有が有利ですが、物価上昇（インフレ）局面では、「現金・預金」以外の資産を活用して、資産を育てていく必要があります。

- ◆ 日本の家計金融資産（2023年3月末時点）は約2,056兆円に上ります。そのうち、50%超が「現金・預金」となっています（左図）。一方で、「株式等・投資信託」の割合は合計約15%と、「現金・預金」の1/3程度にとどまっています。これまで日本で長らく続いたデフレ環境下では、資産を「現金・預金」にとどめておくことが、資産価値の減少を防ぐ選択肢の一つでした。しかし、昨年来のようなインフレが意識される局面では、株式や投資信託のようなインフレに連動しやすい資産を保有することが一つの資産防衛策になります。
- ◆ なお、米国の家計金融資産では、「現金・預金」が約13%である一方、「株式等・投資信託」の割合は約51%に上ります。日米の家計金融資産の推移をみると、その差は拡大傾向にあります（右図）。これは資産構成割合において、米国で日本よりも多くを占める株式等や投資信託の価格が近年上昇傾向にあるため、米国の家計金融資産の拡大ペースが日本よりも早くなっていると言えます。インフレに対抗し、大切な資産を育てていくためにも、株式や投資信託などのインフレ環境と相性のいい資産の活用を考えていく必要があります。

## 家計の“資産構成の違い”は、“資産規模拡大の差”に影響

【日米の家計の資産構成割合の比較】



【日米の家計金融資産の推移、四半期】



(注) データは2003年3月末～2023年3月末。2003年3月末を100として指数化。  
(出所) 日銀およびFRB（米連邦準備制度理事会）のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

(注) データは2023年3月末現在。  
(出所) 日銀「資金循環の日米欧比較（2023年8月25日）」のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

※この資料の最終ページの「重要な注意事項」を必ずご確認ください

**【重要な注意事項】**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。